長岡市長賞

祖父の死から学んだこと

長岡市立東北中学校
三年　間野　佐和子

今年の五月、私の父方の祖父が入院先で亡くなった。祖父にとって私は初孫で、とても可愛がってもらっていた。人は必ず死ぬものだが、祖父の死はとても悲しかった。

祖父のお葬式が終わってしばらく経つと、自宅のポストに県や長岡市から父宛の郵便がたくさん届くようになった。その郵便物は父の名前の下に亡くなった祖父の名前がカッコ書きで書いてあったので、なぜ祖父の名前が書いてあるの？と母に聞いてみた。すると、母は「おじいちゃんの医療費や介護保険、土地や建物の税金関係の書類がお父さん宛に届いているんだよ。」と教えてくれた。

なぜ医療費や介護と税金が関係してくるのか疑問に思うと同時に、そもそも税金とは何なのだろうかと考え調べてみた。まず、国民が納める税金には私たちに身近な消費税のほかにも父母のように働いている人が納める所得税、酒・タバコや土地・建物にかかる税金など、いろいろな税金があることを知った。そして、国民が納めたそれらの税金は国や都道府県、市町村で私たちが健康で安全安心な生活を送るために、様々な公共サービスや公共施設を提供するための費用として使われていることが分かった。

さらに税金の具体的な使い道を調べてみると、祖父が生前に利用していた医療や介護サービスへの補助や年金だけでなく、私たちが毎日通う学校にかかる費用や警察・消防署・水道・ゴミの収集などの日々の生活に欠かせない住民サービスにも使われているとのことだった。そのほかにも、住んでいる市町村によって多少の違いはあるようだが、妊娠しているときの検診費用やこどもの医療費補助・予防接種、中高年への生涯学習支援、火葬場の運営など多種多様な内容に税金が使われていることが分かった。これは人が生まれる前から亡くなったあとまで、生涯にわたって税金が使われているサービスを何らかの形で受けているということだ。

今までは買い物をしたときの消費税くらいしか身近に感じていなかった税金がこれほどまでに私自身を含め、私たちの一生に密接に関わっていて、生活していくうえで必要不可欠なサービスに姿を変えていることを知って驚いた。税金というと「取られる」というマイナスなイメージが強かったが、税金を納めることは私たちが日々安心して暮らしていくうえでとても重要であることが分かった。

今の私は大人が納めてくれている税によって支えられる側にいるが、社会人になったらしっかりと税金を納め、安心して暮らせるよりよい社会に貢献していきたいと思う。